平成２３年度　畑作関係 除草剤・生育調節剤試験判定結果

財団法人　日本植物調節剤研究協会

平成23年度畑作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成23年12月1日(水)～2(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。

この検討会には、試験場関係者43名、委託関係者53名ほか、計128名の参集を得て、除草剤36薬剤(235点)、生育調節剤3薬剤(7点)、展着剤1薬剤(4点)について、試験成績の報告と検討が行われた。

その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成２３年度　畑作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.AH-01液 ｸﾞﾙﾎｼﾈｰﾄPﾅﾄﾘｳﾑ塩 11.5% [Meiji Seikaﾌｧﾙﾏ、北興化学工業]	大豆	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前 雑草生育期(草丈30cm以下)	300～500mL<水量100～150L>	全土壌	東北以南		~~・播種後出芽前処理における水量150Lでの年次変動の確認(東北以南)~~
					播種後出芽前 雑草生育期(草丈30cm以下)					
				茎葉(畦間)	大豆生育期 雑草生育期			全域	・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈30cm以下で散布する	
				茎葉(畦間・株間)	大豆生育期(本葉5葉期以降)、 雑草生育期(草丈20cm以下)				・専用ﾉｽﾞﾙを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	
				茎葉	大豆落葉期～成熟期、 雑草生育期	500～1000mL<水量100～150L>		東北以南	・水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉は枯れても果実が残る場合がある ・効果の完成に2週間程度を要する	
2.AK-01液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 41% [TAC普及会]	かんしょ	実	一年生雑草	茎葉	耕起7日前 雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量100L>	全土壌	東北以南		・効果、薬害の確認
	そば	継								・効果、薬害の確認
3.AL-513乳 ｱﾗｸﾛｰﾙ 30%、 ﾘﾆｭﾛﾝ 12% [日産化学工業]	大豆	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～600mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・ﾂﾕｸｻに対する600～800mL/10a処理での効果、薬害の確認
4.AL-513(改)細粒 ｱﾗｸﾛｰﾙ 4%、 ﾘﾆｭﾛﾝ 1.04% [日産化学工業]	大豆	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	4～6kg	全土壌(砂土を除く)	東北以南		・中耕培土後、雑草発生前処理での効果、薬害の確認

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰラインは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
5.ALH-0831乳 ｸﾚﾄｼﾞﾑ 23% [ｱﾘｽﾀ ﾗｲﾌｻｲｴﾝｽ]	大豆	実 (従来どおり)	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期	35～50mL<水量100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	~~・イネ科雑草6～8葉期処理での年次変動の確認(北海道/東北以南)~~
					大豆生育期、イネ科雑草5～8葉期(草丈30cm以下)	50～75mL<水量100L>				
			ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ		大豆生育期、イネ科雑草3～5葉期					
	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認(北海道)
6.BAH-0805乳 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 19.7%、ﾍﾟﾝﾃﾞｨﾒﾀﾘﾝ 23.1%(w/w) [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	ばれいしょ	継								・効果、薬害の確認
7.BAH-1114乳 既知化合物A 7%、既知化合物B 6.8% 既知化合物C 12%(w/v) [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	大豆	継								・効果、薬害の確認
8.BAS-656乳 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 64% [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	とうもろこし(飼料用、食用)	実・継	一年生雑草(ｱｶｻﾞ科、ｱﾌﾞﾗﾅ科、ﾀﾃﾞ科を除く)	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	75～120mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	東北以南		・出芽直前～揃期処理での効果、薬害の確認(東北以南;飼料用、食用) ・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認(北海道;飼料用、食用) ・ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗに対する効果の確認(北海道)
			一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)		とうもろこし出芽直前~~-1~~～2葉期、イネ科雑草2葉期まで			北海道		
9.BCH-081ﾌﾛｱﾌﾞﾙ ｼﾞﾌﾙﾌｪﾆｶﾝ 8.4% ﾌﾙﾌｪﾅｾｯﾄ 33.6% [ﾊﾞｲｴﾙｸﾛｯﾌﾟｻｲｴﾝｽ]	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
10.CG-119 α乳 S-ﾒﾄﾗｸﾛｰﾙ 83.7% [ｼﾝｼﾞｪﾝﾀ ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	ばれいしょ	実・継	一年生雑草	土壌	植付後萌芽前、雑草発生前	100～130mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	~~寒冷地~~ 東北以南	・広葉雑草(特にｱｶｻﾞ科)には効果が劣るので、イネ科雑草優占圃場で使用すること ・有機物の多い土壌や粘土質の土壌では所定範囲内で多めの薬量を散布する	・効果、薬害の確認(北海道) ~~・地域拡大~~ ~~・低薬量での適用性の検討~~
	べにばないんげん	継								・効果、薬害の確認

A.除草剤　　注1)アンダーラインは拡大部分　注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
11.HCW-2017フロアブル DCMU 50% [保土谷UPL、北興化学]	大豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	150～200mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・タデ類には効果が劣る	・播種後出芽前処理での年次変動の確認(北海道) ・播種後出芽前、雑草発生始期での効果、薬害の確認(東北以南) ~~・畦間・株間処理での効果、薬害について年次変動の確認(北海道)~~ ・畦間・株間処理での一年生イネ科雑草に対する効果の確認(北海道) ・薬量100mL/10aでの畦間株間処理における効果、薬害の確認(東北以南) ・アサガオ、ホオズキ類に対する効果の確認
				茎葉兼土壌(畦間・株間)	大豆生育期(本葉5葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)				・専用ノズルを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する ・葉齢の進んだイネ科雑草には効果が劣る場合がある ・イネ科雑草が2葉期より生育している場合には、展着剤を加用する ・低薬量では、生育の進んだタデ科雑草に効果が劣る	
	小豆	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	150～200mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・タデ類には効果が劣る ・過湿条件では黄化や生育抑制を生じることがある	・播種後出芽前処理での年次変動の確認(北海道) ~~・畦間処理での年次変動の確認(北海道)~~
				茎葉兼土壌(畦間)	小豆生育期、雑草生育期	100～200mL<水量100L>			・作物に飛散しないように散布する ・雑草の草丈10cm以下で散布する(北海道) ・雑草の草丈15cm以下で散布する(東北以南) ・葉齢の進んだイネ科雑草には効果が劣る場合がある ・イネ科雑草が2葉期より生育している場合には、展着剤を加用する	
	さとうきび(株出)	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・ムラサキカタバミには効果が劣る場合がある	~~・多年生広葉雑草に対する効果の確認~~ ・さとうきび萌芽前処理での効果、薬害の確認
	さとうきび(春植)	実	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・ムラサキカタバミには効果が劣る場合がある	~~・多年生広葉雑草に対する効果の確認~~
	さとうきび(夏植)	実・継	一年生雑草、多年生広葉雑草	茎葉兼土壌	さとうきび生育期、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～150mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・ムラサキカタバミには効果が劣る場合がある	~~・効果、薬害の確認~~ ・多年生広葉雑草に対する効果について年次変動の確認
12.HPW-105乳 トリフルラリン 33% IPC 11% [保土谷UPL、タウケミカル日本]	大豆	継								・効果、薬害の確認
13.HSW-9104s乳 デスメディファム 2.3% フェンメディファム 10% S-メトラクロール 7.5% [ホクサン]	てんさい(移植)	実	一年生雑草	茎葉兼土壌	てんさい定植活着後、雑草発生揃期	500mL<水量50～100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道	・タデ科に効果が劣る場合がある	~~・水量50L処理での効果、薬害の確認(北海道)~~
14.MAH-0801顆粒水和 エトフメセート 6.5% フェンメディファム 6.5% メタミトロン 28% [マクテシム・アガン・ジャパン]	てんさい(移植)	実・継(従来どおり)	一年生雑草	茎葉兼土壌	てんさい定植活着後、雑草発生揃期	400～600g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道	・展着剤を加用する	・水量50L処理での効果、薬害の確認(北海道)

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰラインは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
15.MAH-0901ﾌﾛｱﾌﾞﾙ ｴﾄﾌﾒｾｰﾄ 15% ﾒﾀﾐﾄﾛﾝ 35% [ﾏｸﾃｼﾑ･ｱｶﾞﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	てんさい (移植)	実･継	一年生広葉雑草	茎葉兼土壌	てんさい定植活着後、雑草発生揃期	500～700mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道		･一年生ｲﾈ科雑草に対する効果の確認
16.MAH-1001ﾌﾛｱﾌﾞﾙ 新規化合物10% [ﾏｸﾃｼﾑ･ｱｶﾞﾝ･ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	大豆	―								(作用性)
17.MBH-118乳 (旧KUH-959) ﾌﾙﾁｱｾｯﾄﾒﾁﾙ 5% [丸和ﾊﾞｲｵｹﾐｶﾙ]	飼料用とうもろこし	実･継 (従来どおり)	ｲﾁﾋﾞ	茎葉	ｲﾁﾋﾞ3～5葉期、とうもろこし4葉以上	5～10mL<水量100L>	全土壌	~~寒冷地以西~~ 東北以南	･ｲﾈ科雑草対象の土壌処理剤と体系処理する ･処理時の葉に一過性の白斑を生じる場合がある	･効果、薬害の確認(北海道)
					ｲﾁﾋﾞ5～8葉期、とうもろこし4葉以上	10mL<水量100L>				
18.NC-331水和 ﾊﾛｽﾙﾌﾛﾝﾒﾁﾙ 5% [日産化学工業]	飼料用とうもろこし	実･継	ｲﾁﾋﾞ	茎葉	とうもろこし3～5葉期、ｲﾁﾋﾞ2～5葉期	50～100g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	~~寒冷地以西~~ ~~全域~~		･ﾊﾏｽｹﾞに対する効果の確認 ･暖地での効果の確認
			ｼｮｸﾖｳｶﾞﾔﾂﾘ		ｼｮｸﾖｳｶﾞﾔﾂﾘ2～5葉期			~~寒冷地以西~~ 東北以南		
19.NC-360ﾌﾛｱﾌﾞﾙ ｷｻﾞﾛﾎｯﾌﾟｴﾁﾙ 7% [日産化学工業]	そば	―								(作用性)
20.NC-622液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩 48% [日産化学工業]	大豆	実	一年生雑草	茎葉	耕起または播種前　雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL<水量25～100L>	全土壌	東北以南	･少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する	~~･収穫前全面茎葉処理での効果、薬害について年次変動の確認~~
					播種後出芽前　雑草生育期(草丈30cm以下)					
				茎葉(畦間)	生育期 雑草生育期				･作物に飛散しないように散布する ･少水量(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する ･雑草の草丈30cm以下で散布する	
				茎葉	大豆黄葉揃落葉期～成熟期 ~~(収穫7日以前)~~、 雑草生育期	500～1000mL<水量50～100L>			~~･黄葉揃期とは、着生葉のほとんどが黄化した時期を目安とする~~ ･成熟の遅れた株に散布すると、子実の変色やしわ粒等が発生する場合がある ･水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉は枯れても果実が残る場合がある ･効果の完成まで2週間以上を要する	

A.除草剤

注1)アンダーラインは拡大部分 注2)作物名のアンダーラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
21.NK-1101水和 既知化合物A 24.8% 既知化合物B 26.6% [日本化薬]	大豆	継								・効果、薬害の確認
22.NM-536P乳 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 8.5% ﾘﾆｭﾛﾝ 12% [日産化学工業]	大豆	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		
	とうもろこし (飼料用)	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	400～ 600mL <水量 100L>	全土壌 (砂土を除く)	全域		
23.NM-536P細粒 ｼﾞﾒﾃﾅﾐﾄﾞP 1.0% ﾘﾆｭﾛﾝ 1.4% [日産化学工業]	大豆	継、								・効果、薬害の確認
24.NP-55乳 ｾﾄｷｼｼﾞﾑ 20% [日本曹達]	大豆	実・継	一年生イネ科雑草 (ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ除く)	茎葉	大豆生育期、 イネ科雑草3～5葉期	150～ 200mL <水量25～ 150L>	全土壌	北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する	・イネ科雑草8～10葉期処理での年次変動の確認
						150～ 200mL <水量100 ～150L>		東北以南	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	
					大豆生育期、 イネ科雑草5～8葉期 (草丈30cm以下)	200mL <水量 100L>		全域		
					大豆生育期、 イネ科雑草8～10葉期 (草丈30cm以下)	250～ 300mL <水量100 ～150L>		東北以南		
	小豆	実・継	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	小豆生育期、 イネ科雑草3～5葉期	150～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	寒地、寒冷地 北海道、東北	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)
	菜豆	実・継	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	菜豆生育期、 イネ科雑草3～5葉期	150～ 200mL <水量 100L>	全土壌	寒地、寒冷地 北海道、東北	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(東北以南)
	かんしょ	実	一年生イネ科雑草 (ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ除く)	茎葉	かんしょ生育期、 イネ科雑草3～~~5~~8葉期 (草丈30cm以下)	150～ 200mL <水量100 ～150L>	全土壌	温暖地、暖地 全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
25.NP-61乳 ﾃﾌﾞﾗﾛｷｼｼﾞﾑ 10% [日本曹達]	ばれいしょ	実	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを含む)	茎葉	ばれいしょ生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量100L>	全土壌	北海道	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する	
			一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗ除く)		ばれいしょ生育期、イネ科雑草5～8葉期(草丈30cm以下)					
26.NP-65乳 ﾄﾌﾞﾗﾒｿﾞﾝ 3.6% [日本曹達]	とうもろこし(飼料用)	実(従来どおり)	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草3～5葉期	100～150mL<水量100～150L>	全土壌	全域		~~・問題雑草への効果の確認~~
	とうもろこし(食用)	実(従来どおり)	一年生雑草	茎葉	とうもろこし3～5葉期、雑草3～5葉期	100mL<水量100～150L>	全土壌	全域		~~・年次変動の確認(北海道)~~
27.S-482顆粒水和 ﾌﾙﾐｵｷｻｼﾞﾝ;50% [住友化学]	らっかせい	継								・効果、薬害の確認
	べにばないんげん	継								・効果、薬害の確認
28.SAH-0107液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 1% [住商ｱｸﾞﾛｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ]	大豆	継								・効果、薬害の確認
29.SL-122顆粒水和 ﾌﾙｱｼﾞﾎｯﾌﾟP 7% ﾘﾆｭﾛﾝ 30% [石原産業]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉兼土壌(畦間・株間)	大豆生育期(本葉~~5~~ 3葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)	~~170~~ 200～~~330~~ 300g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	東北以南	・専用ﾉｽﾞﾙを使用する ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	・播種後出芽前処理での効果、薬害の確認 ・畦間・株間処理での効果、薬害の確認(北海道) ~~・170g処理での年次変動の確認~~ ~~・大豆5葉期以前の処理での薬害の確認~~
30.SL-236(L)乳 ﾌﾙｱｼﾞﾎｯﾌﾟP 17.5% [石原産業]	てんさい	実・継(従来どおり)	一年生イネ科雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを除く)	茎葉	てんさい生育期、イネ科雑草3～5葉期	75～100mL<水量25～100L>	全土壌	全域	・イネ科雑草優占圃場で使用する ・体系処理:広葉雑草対象の土壌処理剤を使用する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する	・イネ科雑草6～8葉期処理での効果、薬害の確認(北海道)
31.SYJ-100乳 ﾌﾟﾛｽﾙﾎｶﾙﾌﾞ 78.4% [ｼﾝｼﾞｪﾝﾀ ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	春播小麦	実	一年生雑草(ｽｽﾞﾒﾉｶﾀﾋﾞﾗを含む)	土壌	播種後～小麦出芽揃期(雑草発生始期まで)	400～500mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道	・薬斑、黄化、縮葉などの症状がみられる場合がある	~~・効果、薬害の確認(北海道)~~
32.WOC-01液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾐﾝ塩 41.0% [三井化学ｱｸﾞﾛ]	大豆	実	一年生雑草	茎葉(畦間)	大豆生育期、雑草生育期	200～500mL<水量25～100L>	全土壌	東北以南	・作物に飛散しないように散布する ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使用する	~~・効果、薬害の確認~~

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰﾗｲﾝは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
33.ZK-122液 ｸﾞﾘﾎｻｰﾄｶﾘｳﾑ塩 44.7% [ｼﾝｼﾞｪﾝﾀ ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	大豆	実・継(従来どおり)	ｺｳｷﾔｶﾞﾗ	茎葉	耕起または播種7日以前雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～50L>	全土壌	東北以南	・専用ﾉｽﾞﾙを使用する	・問題雑草への効果の確認(雑草茎葉塗布処理)
			一年生雑草			250～500mL<水量25～100L>			・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する	
					播種後出芽前　雑草生育期(草丈30cm以下)	250～500mL<水量25～100L>			・大豆の発芽開始後は、薬剤が直接触れると薬害が発生することがあるので注意する。 ・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する。	
				茎葉(畦間)	大豆生育期、雑草生育期	250～500mL<水量25～50L>			・作物に飛散しないように散布する ・専用ﾉｽﾞﾙを使用する ・雑草の草丈30cm以下で使用する	
			一年生広葉雑草	茎葉(雑草塗布)	大豆着莢期以降、雑草生育期	2倍希釈液(0.1mLを1～3ヶ所/株)	全土壌	東北以南	・専用塗布処理器を使用する ・作物に付着しないように塗布する ・分枝の多い雑草には2ヶ所以上塗布する	
	とうもろこし(飼料用)	実・継(従来どおり)	雑草全般(ｽｷﾞﾅを除く)	茎葉	播種後出芽前　雑草生育期(草丈30cm以下)	200～500mL<水量25～100L>	全土壌	東北以南	・少水量散布(25～50L)の場合は専用ﾉｽﾞﾙを使用する	・水量100L処理での年次変動の確認(播種後出芽前) ・効果、薬害の確認(耕起または播種前)
						200～400mL<水量50L>		北海道		
34.ｱﾗｸﾛｰﾙ乳 ｱﾗｸﾛｰﾙ 43% [日産化学]	てんさい(直播)	継								・効果、薬害の確認
	てんさい(移植)	実	一年生雑草	土壌	てんさい定植後、雑草発生前	300～400mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	北海道		・中耕培土後処理での効果、薬害の確認
			一年生ｲﾈ科雑草	茎葉兼土壌	中耕培土後、雑草発生揃期					
35.ﾄﾘﾌﾙﾗﾘﾝ乳 ﾄﾘﾌﾙﾗﾘﾝ 44.5% [ﾀﾞｳ･ｹﾐｶﾙ日本]	大豆	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前　雑草発生前	200～300mL<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域	・ﾂﾕｸｻ科、ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科、キク科、ｱﾌﾞﾗﾅ科には効果が劣る	・中耕培土後の、畦間・株間処理での効果、薬害の確認 ・播種後出芽前処理について北海道での年次変動の確認
				土壌(畦間)	中耕培土後雑草発生前					

A.除草剤

注1)ｱﾝﾀﾞｰラインは拡大部分　注2)作物名のｱﾝﾀﾞｰラインは、新たに実用化可能としたもの

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
36.ﾘﾆｭﾛﾝ水和 ﾘﾆｭﾛﾝ 50% [TKI]	大豆	実	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、雑草発生前	100～200g<水量70～150L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・年次変動の確認
			一年生広葉雑草		播種後出芽前、雑草発生始まで				・黄化、生育抑制などの薬害を生じる事がある	
				茎葉兼土壌(畦間・株間)	生育期(本葉3葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)	100～200g<水量100L>		東北以南	・専用ﾉｽﾞﾙを使用する。 ・噴口はできるだけ低くし、本葉にかからないように散布する	
					生育期(本葉5葉期以降)、雑草生育期(草丈15cm以下)			北海道		
	かんしょ	実・継(従来どおり)	一年生雑草	土壌	挿苗5日前以前、雑草発生前	100～200g<水量100L>	全土壌(砂土を除く)	全域		・畦間処理での効果、薬害の確認
37.ﾚｸﾞﾛｯｸｽ液 ｼﾞｸﾜｯﾄ 31.8% [ｼﾝｼﾞｪﾝﾀ ｼﾞｬﾊﾟﾝ]	大豆	実・継	一年生雑草	茎葉	大豆莢黄熟期～成熟期、雑草生育期	300mL<水量100L>	全土壌	東北以南	・水分含量の高い果実をつけた雑草では、茎葉は枯れても果実が残る場合がある ・効果の完成に1週間程度を要する	・畦間・株間処理での効果、薬害の確認(東北以南) ・収穫前全面処理での効果、薬害の確認(東北以南)

B.生育調節剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	使用規準							継続の内容
			対象作物使用目的	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.BAW-0907液 ｸﾛﾙﾒｺｰﾄ 75%(w/v) [BASFｼﾞｬﾊﾟﾝ]	春播小麦	継								・効果、薬害の確認
2.KUH-833F(M)ﾌﾛｱﾌﾞﾙ ﾌﾟﾛﾍｷｻｼﾞｵﾝｶﾙｼｳﾑ塩 5.0% [ｸﾐｱｲ化学工業]	大麦	実・継	・大麦対象 ・節間伸長抑制による倒伏軽減	茎葉	出穂前5～10日	150mL<水量100L>	全土壌	寒冷地以西 全域		・裸麦への適用について再検討 ・薬量について再検討
3.JC-I201091液 3-decene-2-one 98% [ｱﾝﾊﾟｯｸ ｹﾐｶﾙ]	ばれいしょ	実	・ばれいしょ収穫後、貯蔵中の萌芽抑制効果	施設内くん蒸(48時間曝露)	ばれいしょ萌芽時	115g/ばれいしょ1t		北海道	・専用の煙霧機および煙霧循環装置を用いて処理する ・反復処理はばれいしょの再萌芽を認めてから行う	

C.展着剤

薬剤名 有効成分及び含有率(%)	作物名	判定	試験された使用法							継続の内容
			対象雑草	処理法	処理時期	使用量(/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.NK-701液 ﾎﾟﾘｵｷｼｴﾁﾚﾝｱﾙｷﾙｴｰﾃﾙ 50% ｼﾞｱﾙｷﾙｽﾙﾎｺﾊｸ酸ﾅﾄﾘｳﾑ 22.5% [日本化薬]	てんさい(移植)	―	一年生広葉雑草	茎葉	定植活着後、雑草発生揃期	26.7mL、ﾍﾞﾀﾅｰﾙ乳500～600mL<水量80L>に加用	全土壌(砂土を除く)	全域		
	てんさい(移植)	―	一年生雑草	茎葉兼土壌	定植活着後、雑草発生始期	33.3mL、ﾚﾅﾊﾟｯｸ水和200～300g<水量100L>に加用	全土壌(砂土を除く)	全域		